
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム 令和3年度 実施レポート

- 横浜市立 浅間台小学校 × 荒井靖水・渡邊勝代…………… 1

- 横浜市立 緑園東小学校・緑園西小学校 × 長井江里奈…………… 2
アシスタント：北園優、鈴木綾香、ニシハラ☆ノリオ、山下彩子

- 横浜市立 上菅田特別支援学校 × 井上尚子…………… 3
ゲストアーティスト：松山薫、南俊輔



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校 × 荒井靖水・渡邊勝代 みんなで1つの音をイメージしてお箏を演奏してみよう

| | |
|----------|---|
| 担当アーティスト | 荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邊勝代（箏奏者） |
| 実施校 | 浅間台小学校（西区） |
| コーディネーター | 認定NPO法人STスポット横浜 |
| 実施科目・教科名 | 音楽 |
| 実施概要 | 体験型／箏／5学年2学級48名・個別支援学級17名 |
| 実施日程 | 2022年1月12日(水)、2022年1月13日(木)、2022年1月14日(金) |



授業のねらい

触れることの少ない楽器についての理解を深めたり、音色や演奏の仕方の異なる楽器を使って、新たな表現をつくりあげたりする体験を目指す。また、学び合いの中で、お互いを認め合い、強調し合って取り組む経験ができることを目標にする。

主な内容

<1日目>お箏クイズ①（歴史など）、「さくらさくら」の演奏体験。<2日目>お箏クイズ②（箏の数え方や重さなど）、現代曲の演奏体験、荒井さんと渡邊さんそれぞれの演奏を鑑賞。<3日目>5年生：現代曲（2日目の続き）の演奏体験、アーティストによる「さくらさくら」の演奏を鑑賞、アーティストの演奏に先生方が演奏するピアノやギターも交えた現代曲を鑑賞。個別支援学級：お箏クイズ、「さくらさくら」の演奏体験、アーティストによる「さくらさくら」と現代曲の演奏を鑑賞、アーティストの演奏と先生方が演奏するピアノでの現代曲を鑑賞。

アーティストから

各クラスともお箏に対して積極的に参加してくれました。難しい部分もグループごとに協力して課題に取り組んでもらい、男女問わず、お箏に取り組んでくれました。日を追うごとに、お箏=昔の楽器、または難しいものと感じなくなってくれたと思います。また、講師の演奏にも、子ども自身それぞれに良かった、もう少し？もっと聞きたいなど素直な表情も印象に残りました。（荒井）3日間連続の授業で、初日の体験はさくら。戸惑いながらも「さくらが弾けた！」と自信を持ち、2日目以降は初日の経験を生かして、より集中して楽器に向かう姿がありました。少し難易度の高いアレンジへの挑戦でしたが、友達同士でアドバイスし合いながら、しっかりと期待に応えてくれました。コロナ禍のため、窓を開放し工夫をしながらの授業。無事に終えることができ、貴重

な機会に感謝しています。和楽器が決して遠い存在ではないと感じてくれていたらうれしいです。（渡邊）

コーディネーターから

浅間台小学校の5年生と個別支援学級の子どもたちは、アーティストからの問い掛けにも素直に反応してくれました。アーティストは彼らに、お箏は昔のものではないこと、音楽は相手を選ばず誰とでも楽しめることなどを知ってもらえるよう、内容を考えてくださいました。1日目の最後に、明日以降は「さくらさくら」を練習しないことが伝えられると、子どもたちは「えー！」と驚いた様子でしたが、2・3日目に自分たちが流行の現代曲を演奏することが分かると、驚きの中にも少し喜んでいる姿が見えました。曲の全部分を“完璧に弾く”のではなく、短いフレーズでもみんなで1つの音をイメージして弾いたことで、思ったよりもできたという感覚や、できなかったことに挑戦した経験を大切にしたいなと思いました。

先生から

今年度の児童の実態に合った内容であり、アーティストの先生方の声掛けが的確だったので、子どもたちが意欲的に集中して取り組んでいました。私自身は、今回初めてアーティストの方々と一緒に演奏する機会をいただきました。たいへん緊張しましたが、とても充実した時間でした。得がたい経験をさせていただいたこと、心より感謝しております。もちろん、アーティストの先生方の“本気の”演奏は本当に素晴らしかったです。

子どもたちから

お箏は昔から続く歴史のある楽器だが、今どきの曲も弾けることがわかった。／靖水先生の琵琶の迫力がすごかった。琵琶に合わせて歌うのもすごかった。／靖水先生たちの“本気の”演奏がすごかった。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立緑園東小学校・緑園西小学校×長井江里奈 いろいろな素材と自分の身体で遊んでみよう

| | |
|----------|--|
| 担当アーティスト | 長井江里奈（ダンサー、演出家、ワークショップファシリテーター）／アシスタント：北園優（ピアニスト、パフォーマー、楽曲制作）、鈴木綾香（ダンサー、振付家）、ニシハラ☆ノリオ（かぶり物アーティスト、造形作家、舞台美術家）、山下彩子（ダンサー、アーティスト） |
| 実施校 | 緑園東小学校、緑園西小学校（泉区） |
| コーディネーター | 認定NPO法人STスポット横浜 |
| 実施科目・教科名 | 自立活動、体育、音楽、図画工作、総合的な学習の時間、生活 |
| 実施概要 | 体験型／身体表現／個別支援学級 29名 |
| 実施日程 | 2021年10月19日(火)、2021年10月29日(金)、2021年11月22日(月)、2021年11月24日(水)、2021年12月8日(水)、2021年12月22日(水) |



授業のねらい

ボディイメージが乏しくぎこちない動きの児童が多いことから、音楽に合わせて身体を動かして、身体が多様な動きの獲得や、運動・動作の基本的技能の獲得、また言葉だけでなく感覚を総合的に活用して周囲と関わったりしてコミュニケーション能力を育めるような活動。興味の幅や、発達段階もさまざまなため、身体表現や音楽、工作など複数の表現手法を通して、それぞれに合った参加の仕方でおおのの表現力やコミュニケーション能力を高めることをねらいとする。

主な内容

<1日目>身体で遊ぼう／動きのまねっこ、ピアノの音に合わせて動いてみる、言葉から動きをイメージしてみる、早く立ったりゆっくり寝たり、ゴムくぐり。 <2日目>道をつくって遊ぼう／マスキングテープや体育館にある用具を使って緑園東小学校までの道を描き、出来上がった立体地図の上で音楽に合わせて身体を駆使して遊ぶ。 <3日目>不用品で巨大な顔をつくらう／閉校に伴い不要になった学用品や家庭のゴミをブルーシートに貼り付けて、巨大な顔をつくる。 <4日目>紙で遊ぼう／動きのまねっこ、ピアノの音に合わせて動いてみる、紙を手に乗せて歩いたり風を受けながら落とさないように誰かに渡す、紙をこすったり丸めたりして音楽に合わせて音を立てて楽しむ。 <5日目>ペットボトルで遊ぼう／大量のペットボトルをランダムに立ててある中を倒さないように歩いてみる、足の間や脇の下にたくさん挟んで動いてみる、音楽に合わせていろいろな鳴らし方を発明してみる。 <6日目>ホースで遊ぼう／長いドレンホースにみんながつかまってさまざまな形をつくったり、くぐり抜けたり、チームに分かれて糸電話のように伝言ゲーム、1mの長さに切って一人ひとり楽しみ方を発明する。

アーティストから

今回のワークショップは、2年目ならではのメリットがたくさんありました。まずは先生方がワークショップの進め方に慣れてくださったことです。昨年は子どもたちの奔放な様子に戸惑われた先生方も「山猫団との時間は子どもたちにとって非日常、それを体験するだけで十分。」と言ってくださり、私たちも安心して緩やかにワークを進めることができました。ゴールを決めず、子どもたちが自発的に遊び方を発見していくのを見守れたおかげで、昨年はいま参加できなかった子ども自分なりの取り組み方を見つけ

ていました。ぐちゃぐちゃになって踊ったり走り回ったりする中で自然と両校の児童の距離が縮まっていたのも微笑ましく、統合に向けた良い出会いになったと思います。

コーディネーターから

1～3回目は緑園西小学校の個別支援学級と、4～6回目は昨年に引き続き、令和4年度から統合される緑園東・西小学校、両校の個別支援学級合同で実施しました。初めて使ってみる素材や、どうなるか予想もつかないような活動がたくさんありましたが、2年目ということで、両校の先生方が前向きに捉えてトライ&エラーを許してくださったことが大きかったと感じています。先生方との毎回の振り返りで、子どもたち一人ひとりの名前を挙げて、表情や反応を振り返り共有できたことは、アーティスト、コーディネーター、先生方、みんなにとってたくさんの学びがあり、そんな関係を築けたことも大きな成果でした。

先生から

コーディネーターやアーティストの方々我真剣さに感謝いたします。子どもの心を捉えようと、いろいろと研究したり工夫したりしている姿勢が子どもたちの心を捉えることを可能にするのだなと分かり、勉強になりました。アーティストの皆さんからは、子どもたちの表情や身体の動きをよく観察すること、子どもたちに合わせた遊びや活動の提示をしていくこと、子どもたちの動きや考えを元にして、学習や活動を作り上げていくことなど、たくさんのお話を学ぶことができました。教員としては、日ごろ楽しくすることの大切さを忘れて、ついつい子どもたちをリードしていく気持ちになりがちなので、子どもたちがやりたい！面白い！と感じる活動や学習を提示していきたいと思いました。コーディネーターの方には、細かい連絡をいただき、スムーズに活動に取り組むことができました。書類の作成や準備するものや来校時間などの確認がとてありがたかったです。学校や子どもたちの様子にもとても気配りいただき感謝しています。

子どもたちから

ペットボトルのまわりをゆっくりあるくのがたのしかった。／かおづくりとホースがたのしかった。／テープでちずをつくるのがおもしろかった。／相手の動きに注目することができた。／動くことが楽しかった。／アートタイム全体が楽しかった。／ピアノが印象に残った。



横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校 × 井上尚子 匂いと光、その記憶から生まれるコミュニケーション

| | |
|----------|--|
| 担当アーティスト | 井上尚子（美術作家）／ゲストアーティスト：松山薫（野毛山動物園 飼育展示係）、南俊輔（映像作家） |
| 実施校 | 上菅田特別支援学校（保土ケ谷区） |
| コーディネーター | 認定NPO 法人ST スポット横浜 |
| 実施科目・教科名 | 美術 |
| 実施概要 | 体験型／現代美術／高等部 13 名 |
| 実施日程 | 2022 年 1 月 20 日（木）、2022 年 1 月 25 日（火）、2022 年 1 月 27 日（木） |



授業のねらい

さまざまな感覚刺激を媒介とした、身体意識の形成、認知コミュニケーション能力の拡大を重点に、普段なかなか体験できないような内容。光や音、肌身で感じ取れるものや、香りによるアプローチなどを複合した活動を目指す。

主な内容

<1日目>「匂いの虹」／野毛山動物園の松山さんが紹介する、動物の食べている餌や寝床の素材など、さまざまなタイプの匂いを嗅いで、どんな感じがするか、どんな記憶が呼び起こされるかを味わった。そこから一つひとつ色に表して、それらをつなげた掛け軸のような「匂いの虹」を作成。<2日目>「光の森の記憶」／映像作家の南さんの映写機を使った光と音の作品を全身で体験したり、映像に使用するフィルムの匂いを嗅いだりして、どんな感じがするか、どんな記憶が呼び起こされるか、感想をシェアした。<3日目>「マイ・くんくんボトル」／1・2日目で体験した匂いや、生活の中の好きな匂い・気になっている匂いを持ち寄って、一人ひとりオリジナルのマイ・くんくんボトルを作成。

アーティストから

「匂いの記憶」のコンセプトを軸に、上菅田特別支援学校の生徒に適したプログラムを先生と協議しながら制作プロセスを決め、実施できたことはたいへん学び多き時間と、実り多き成果となりました。また、3日間の構成を野毛山動物園の松山氏、映像作家の南氏とコラボレーションし、新しいコミュニケーションの表現と鑑賞体験の幅を広げることができました。作業プロセスに余白を多く持ち、生徒と先生が自身でアイデアを重ねていくことで、自分の色や形、感性を素直に見つめ、個性豊かな作品を完成することができました。3日間の間隔も記憶と緊張感が途切れないうように良い期間で、みんなで集中した時間とこれから変化していく匂いの記憶が未来の作品となっていくと思います。その変化も心から楽しみにしております。（井上）

上菅田特別支援学校の生徒との今回の体験は私にとっても初めての試みでしたが、とても心に残る教育プログラムとなりました。動物園で動物たちが食べている餌や、床材として使用しているウッドチップなどの匂いを嗅いでもらうという、普段はあまり経験することのない出来事ですが、生徒たちの大きささまざまな反応を先生方がつぶさに拾い上げ、そこからイメージする色を描き、最後には個性が輝く虹がたくさん完成されていく様子はとてもワクワク

しました。私たち人間と同じように、動物たちも「食べる」「寝る」を繰り返しています。そうした生活の中にあるさまざまな匂いを意識的に嗅ぐことで、ほんのちょっと動物たちの気持ちに近づくことができたのではないかと思います。生徒たちが、いつか動物園で実際に動物たちを目の前にした時に、今回のプログラムの匂いのことを少しでも思い出してくれたらうれしいです。

（松山）

私は映像作家として、昔の映画機材の使い方を工夫したり、フィルム映画の仕組みを視覚化したりして作品を制作しています。用いているものが専門的なモチーフですから、鑑賞者に知識がなければ本当の意味で作品を鑑賞できないのではないかと、作品の良さが著しく減るのではないかと、という不安があります。今回、上菅田特別支援学校の生徒が光と音に満たされた教室に溶け込んでいくような鑑賞をされている様子から、生徒と先生、スタッフが同じ体験をして、同じ場所にいることの尊さを感じました。生徒の反応は、じっと光を見つめたり、映写機から出る風を肌で感じたり、動く映写機をかぶりついて見たり、うとうとしたりとさまざままで、先生の細やかな気配りもあって、その場にいるみんなが美しく調和されているようでした。今回の経験は今後の制作の励みにもなりました。（南）

コーディネーターから

重度重複の障害のある生徒との活動において、匂いを色や言葉に変換するというのはハードルが高いのではないと思いましたが、生徒ができるできないかではなく、「生徒と先生のコミュニケーションで成立する活動」というところに委ねたことで、それぞれの個性が感じられるユーモアたっぷりの表現が生まれていきました。いわゆる「いい匂い」だけではない匂いや、現代アート作品を持ち込みましたが、よく分からないものを受け止めて生徒と一緒に楽しむことのできる先生方の度量の広さに、たいへん助けられました。

先生から

刺激に対して、生徒それぞれの表情や表現が見られ、とてもいい活動になったと感じました。私が授業を考えるときは、生徒の実態が分かるので必要以上に内容を制限してしまうことがあります。今回は「におい」というテーマでもしかしたら難しいかもしれないと思っていましたが、生徒それぞれの反応があり、やってみなければ分からないと改めて感じることができました。